

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2016年5月18日

報告書名：平成26年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

平成26年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

2016年5月18日

事業名	初等教育改善事業5	
事業対象地	アフガニスタン国 カブール市 ナンガハル県	
事業期間	事業期間：2015年1月16日～2016年2月14日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム アフガニスタン・パキスタン人道支援複数年事業(第5フェーズ)	
総支出・返還金	総支出：107,725,751円(返還額：409,467円)	
プロジェクト目標および、その達成度	<p>本事業の目的は、カブール市およびナンガハル州の「児童の学習環境を改善する」ことである。カブール市およびナンガハル州の教育状況は未だに劣悪である。カブール市の271校のうち103校には校舎がなく、99万人の就学児童・生徒のうち少なくとも37万人が屋外での学習を強いられている(2014年)。またアフガニスタンでは教材・図書および教科書が不足し、暗記中心・教員中心といった古い教授法が一般的であるため、教育の質が低い。教育省は2014年までに全学校の60%に図書室を設置する政策を掲げているが、現時点では10%の学校しか図書室を有していない(2009年)。アフガニスタンには現在72の公共図書館があるが、児童サービスを提供している図書館はほぼ皆無に等しい。</p> <p>①カブール市の1校の校舎建設、②ナンガハル州・カブール市の31の小学校での図書活動の普及およびナンガハル州・カブール市の6の公共図書館による児童サービスの改善、③ジャララバード市での子どもたちの学校外教育活動を行った。</p>	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 校舎建設・備品供与活動については、1校で12教室が建設され、屋外での学習から解放され、教室で学習する小学生児童数は事業前の8クラス、332名から事業後には38クラス、1,601名へと30クラス、1,269名増加し、すべての児童が教室で学習できるようになった。「教室で学習する小学部のクラスが23クラス、児童数が952名増える」という計画時の目標は133%達成された。	受益者数 カブール市の1校の児童1,601名(全員女子)、教員42名。
	(2) 図書室改善活動 10校に図書室が設置された。事業終了時の2015年12月の月間図書貸出数の平均値はナンガハル州の対象校16校については506冊(達成度50%)、カブール州・市の対象校5校については292冊(達成度27%)だった。公共図書館6館については、ひと月あたりの小学生児童の図書貸出数平均が58冊(達成度32%)、図書室利用者数が262名(達成度437%)であった。上記計21校の55%にあたるのべ363名の教員が図書館活動に必要な知識、技能、態	31校の児童42,489名、教員1,140名。

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2016年5月18日

報告書名：平成26年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

	<p>度を向上した（達成度79%）。絵本5タイトルが再版され、80の小学校、6公共図書館に配布された（達成度100%）。学校図書室、公共図書室の貸出冊数に改善の余地がある。教訓として学校図書館野貸出数の目標値を検討する必要があること、カブール市の学校は大規模校が多いため、研修を受ける教員の割合の目標値をナンガハル州とは別に設定すべきであることがあげられる。</p>	
	<p>(3) 子どもの学校外教育活動</p> <p>子どもの学校外教育活動については、子ども図書館は年間に243日開館し、利用者数はのべ29,381人（1日あたり120人）で、女子の割合は49%だった。「1日あたり120人の児童が学校外教育活動に参加している」という計画時の目標は100%達成された。本活動の参加者数は過去3年間安定しており、ロープロファイルで実施しているものの地域に根差してきたと言える。</p>	<p>ジャララバード市内の児童120名。</p>
成果	<p>カブール市の1校の小学校において1棟12教室を建設したことにより、安全で快適な学習環境で学ぶ児童が30クラス、1,269名増え、すべての児童が教室で学習できるようになった。また、就学児童は276名増加した。さらに3部制から2部制になったため授業時間が2時間50分から4時間30分へと1時間40分増加した。これは、計画時には想定していなかった、旧校舎8教室の2階をドイツの篤志家の支援によってカブール市教育局が建設したことによって、8教室増加したためである。カブール市の2校、ナンガハル州の8校の計10校に図書室を設置し、21の小学校および6の公共図書館において児童向けの図書館活動が概ね定着した。120名の児童に学校外教育の機会を提供した。</p> <p>3つのコンポーネントの成果目標は概ね達成されていること、また校舎建設により、276名就学児童が増加したことから、「児童の学習環境が改善される」という事業目的は達成されていると判断できる。</p> <p>本事業のターゲットグループは小学生児童であるが、対象校は高校であり、中学部、高校部の生徒も就学している。校舎建設によって、教室で学習する中学生・高校生が9クラス、364名増加し、中高生も全員が教室で学習できるようになった。3部制から2部制に改善し、児童1人あたりの授業時間が2時間50分から4時間30分へと1時間40分増加した。また教員へのインタビュー結果から児童の学習意欲、教員の勤労意欲が向上した。</p> <p>子どもの学校外教育活動については、タラナ（詩）の朗読、自分たちで作り演出した劇の公演、裁縫・工作・絵画教室などの文化活動は、女子のソフトスキル向上やエンパワメントに寄与していると考えられ、家の外を自由に歩けなくなる年齢に達する前に女子が自信をつけることは成人になってから役立つものと考えられる。</p>	
課題と教訓、提言	<p>アフガニスタンへの日本人職員の渡航は2回予定していたが、引き続き治安が悪いため、渡航できなかった。対応策として、デリーとドバイで計2回、現地職</p>	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2016年5月18日

報告書名：平成26年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

	員を呼び寄せ、業務調整を行った。日本人職員の現地渡航が困難になっているため、現地職員の能力強化支援がより一層必要になっている。
--	---